

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

こころとからだと農業を元気にする「ハーブの里山プロジェクト」

2 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県姫路市

3 地域再生計画の区域

兵庫県姫路市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本市の観光は、世界文化遺産・国宝「姫路城」はじめ、姫路城西御屋敷跡庭園好古園、兵庫県立歴史博物館などがある姫路城周辺に集中している。RESASを見ると姫路城が突出し、他には姫路セントラルパークや書写山圓教寺などが挙げられるが、市南部に集中しており、市北部における観光資源の開発が課題である。

姫路市北部にあり、1984年に設立された香寺ハーブ・ガーデンは、カイワレダイコンから抽出した革新的食品品質保持剤の発見・開発により文部科学大臣表彰を受ける等高い技術力を有し、2017年度には経済産業省の地域未来牽引企業にも選定されている。また、限界集落である地域の農家と協力してハーブを栽培すると共に食養生に特化した農家レストランを展開するなど、6次産業化にも取り組んでいる。2018年9月にはハーブを活用した地域活性化について、本市、神姫バス、グラノ24K（福岡県の地域未来牽引企業）の四者で連携協力の覚書を締結したところである。

以上のように市北部においてハーブを活用した地域活性化の取り組みは進みつつあるものの、交流人口の増など地方創生が実現できていない。このような状況を踏まえ、観光客のニーズに沿った姫路市北部のハーブを活用した新たな体験型観光コンテンツを創出し、観光客の姫路城以外への回遊性を高めて域内経済の活性化を図ること、また、体験型コンテンツの創出にあたっては、近年の健康意識の高まりを踏まえ、ハーブを活用したヘルスツーリズムの観光コンテンツを開発することが課題である。加えて、地域で栽培されたハーブ等への信頼性を高めるため、ハーブ等の健康効果を検証する仕組みづくりが課題である。

さらに、カモミールは、姫路市北部において栽培面積が約5haで栽培面積では日本一となっている。姫路市北部で栽培されているハーブの中でも主要な作物である。カモミールは、和名をカミツレといい、生薬の原料でもある。2018年に国際疾病分類が30年ぶりに改訂され伝統療法に注目が集まる一方、中国等の国内での生薬原料の需要増等から日本への輸出量の減少や価格の高騰が続いておりカモミール等の生薬原料の国産化が求められている。ところが、カモミールの高品質な精油やハーブティーを得るためには花だけを摘み取る必要があり、現時点では手作業でひとつひとつ花を摘み取るしかなく、このため、収穫ボランティアを募って摘み取りを行っているが、収穫ボランティアは基本的に土日祝日しか稼働させることができず収穫量を増やすことができない。また、駐車場の確保・整理・誘導など受け入れに伴う負担も多く、カモミールの花の収穫作業の効率化が課題である。

また、本市では、RESASによると野菜や鶏卵の出荷が伸びる一方で、2015年の農業センサスにおいては、農業就業人口は2010年の4,169人から2,120人に減少し、農業従事者の高齢化が進んでおり、農産物の生産拡大とハーブを活用したヘルスツーリズムなど6次産業化による付加価値向上を持続的なものとする為に新たな担い手を供給し続ける仕組みが不可欠であるが、従前からの就農支援事業では不十分であるため、それら充実強化に加え、さらに就農希望者個々の実情に合わせたきめの細かい様々な選択肢の提供が必要である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

【姫路市の地域未来投資促進法にかかる基本計画の概要】

姫路市では、兵庫県とともに地域未来投資促進法に基づく基本計画を策定しており、成長ものづくり分野以外では、地域の特性を活かして、「③姫路市の世界文化遺産・国宝姫路城などの観光資源を活用した観光交流分野 ④姫路市のそば、小麦、イカナゴなどの特産物を活用した農林水産分野」を戦略的分野として位置付けている。

【姫路市の強み】

■観光資源の強み

姫路市には、国内外の観光客を魅了する観光施設が存在する。本市における総入込客数は2015年度に1,000万人を超え、2016年度は10,267千人となっている（2017年度姫路市入込客数・観光動向調査）。中でも、世界文化遺産・国宝姫路城は、登閣者数がグランドオープン後の平成27年度に過去最高の2,867千人を記録するとともに、同年度の外国人登閣者数は306千人に達し、その後も堅調に増加するなど、姫路城の文化的価値が国内外に広く知られるようになった。姫路城周辺には、姫路城西御屋敷庭園好古園や動物園、美術館、兵庫県立歴史博物館などのほか、城下町の面影を感じる街並みも散策する観光客を楽しませている。他にも、書寫山圓教寺はドラマや映画の撮影が頻繁に行われていることから、ロケ地巡りを楽しむ観光客の姿も見られる。

また、これらの歴史遺産や文化施設以外にも、北部地域における農業体験や、灘のけんか祭りをはじめとする地域の祭事、家島諸島での海水浴や釣り、漁業体験などのアクティビティーも観光客にとって魅力的な要素となっている。これらを含め多種多様な観光資源の存在が本区域の特色といえる。

観光はさまざまな業種に関連する裾野の広い総合産業であり、その振興によって都市の賑わいや活力の創出など地域社会の活性化に大きく貢献すると考えられる。本区域での存在感が大きい姫路城とその周辺への訪問にとどまらず、新たな要素を観光資源として取り入れることが地域経済の成長・発展につながる。2017年3月に策定した「姫路市観光戦略プラン」においても、「姫路城プラスワン」作戦として、姫路城を中心とした都心部の魅力向上と地域への波及、食や体験、スポーツツーリズム、産業ツーリズムなど、多様な観光を進めることで、観光客の滞在時間の延長と宿泊率の向上を図ることとしている。

■特産物の強み

本市は、南北に約56kmの広がりを持ち、北部には中国山地を、中南部には播磨平野を有し、南部には瀬戸内海に面するなど、自然豊かな地域である。また、それらの環境を活かした様々な農林水産業が展開されている。

市北部を中心とする地域では、水稲や小麦、大豆、そばなどの作付けが行われているほか、たけのこやゆずなどが生産されている。作物統計調査の2017年産作況調査によると、水稲で10,400t、小麦で582t、大豆で133t、そばで11tの収穫量があり、そばは県内1位、小麦は県内2位となっている。他にも、中南部では、ほうれんそう等の葉物野菜、トマト、れんこん等が生産されている。また、山間地域では、木材の生産のほか、採卵鶏や肉用牛、乳用牛の飼育が行われており、採卵鶏の羽数は559,500羽（2015年農林業センサス）と県内でも有数の規模となっている。このように、恵まれた自然環境のもと、魅力ある特産物が豊富に存在していることが本区域の特色といえる。

2014年3月に策定された「姫路市農林水産振興ビジョン」では、「環境と共生し、姫路市民の生命と暮らしを支え、温かくふれあえる元気な農林水産業の実現」を基本理念としており、農林水産業による活力ある農山漁村づくりが、地域経済の発展にもつながるとしていることから、姫路市では当該ビジョンに基づき、生産者と消費者の交流の場となる「農林漁業まつり」や地域の特色ある花卉類の生産を通じた集落活性化を目指す「花街道づくり推進事業」などにも取り組んでいる。

また、本区域でも網干メロンや姫路ネギなど姫路で生産された農産物ブランド「姫そだち」のほか、「姫路和牛」、「ぼうぜ鯖」、「華姫さわら」といった地域ブランド品は既に存在するが、このような地域ブランドによる農林漁業の活性化と地域の活性化を表裏一体なものとして推進していくことが重要である。多様な自然景観を有する農山漁村の多面的機能を維持・発揮できるような取組みを進めながらも、一方で姫路市の世界に誇れる観光資源の活用をはじめとする農工商連携や医福食農連携等による6次産業化の推進を結びつけ、雇用機会の創出はもとより、地域経済が自立して循環できるような仕組みづくりに挑戦している。

【官民連携で目指す将来像】

観光及び農林水産分野において、多様な観光資源や、豊かな自然のもとで生まれた魅力ある農林水産物などの地域資源は、本区域の優位性を表すものであり、これらを活用した産業、あるいはこれらを結び付けた産業に取り組む企業・人材の集積を図り、都市ブランド力の強化、地域経済の成長と発展を目指す。

このように、成長性の高い新事業への参入を後押しするとともに、生産性改革を進め、質の高い雇用の創出を行う。

【数値目標】

K P I ①	山之内地区での交流人口 現状値（2018年度）： 約1万人 目標値（2023年度）： 約5万人							単位	人
K P I ②	山之内地区でのハーブの耕作面積 現状値（2018年度）： 約3ha 目標値（2023年度）： 約7ha							単位	ha
K P I ③	農園からの新規就農者数 現状値（2018年度）： 0人 目標値（2023年度）： 30人							単位	人
K P I ④	－							単位	－
	事業開始前 （現時点）	2019年度 増加分 （1年目）	2020年度 増加分 （2年目）	2021年度 増加分 （3年目）	2022年度 増加分 （4年目）	2023年度 増加分 （5年目）	2024年度 増加分 （6年目）	K P I 増加分 の累計	
K P I ①	10,000.00	5,000.00	5,000.00	10,000.00	5,000.00	10,000.00	－	35,000.00	
K P I ②	3.00	0.50	1.00	0.50	0.50	0.50	－	3.00	
K P I ③	0.00	0.00	6.00	6.00	6.00	6.00	－	24.00	
K P I ④	－	－	－	－	－	－	－	－	

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

5－2の③及び5－3のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進タイプ（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

こころとからだと農業を元気にする「ハーブの里山プロジェクト」

③ 事業の内容

1 事業実施にかかる工夫

「2 ハーバルヘルスツーリズムの推進」及び「3 神戸大学医学部との連携によるハーバルヘルスツーリズムの商品化・高付加価値化」の企画・実施にあたっては、民間企業の持つ知見やユーザーとしての女性の視点を取り入れるため、プロジェクトチーム「グランミール」(※)がすべての事業に参画する。「4 担い手の育成が図れる農園の整備」と「5 担い手の育成支援」については「グランミール」の意見を反映させつつ市が実施する。

(※)「グランミール」

香寺ハーブ・ガーデン、グラノ24K(福岡県の地域未来牽引企業)、神姫バス及び本市の四者が締結した連携協力の覚書に基づき、2018年9月に設置した、女性社員・職員によるプロジェクトチーム

2 ハーバルヘルスツーリズムの推進

①農業や観光分野に知見を有するコンサルタント会社等に委託をし、ハーバルヘルスツーリズムを構成する観光コンテンツの発掘と、コンテンツの磨き上げにかかる調査事業を1年目を中心に実施し、2年目からは、調査結果を踏まえたツアーの構築及びモニターツアーの実施による商品化にかかる課題を抽出する。3年目以降は、これら課題解決を行いつつ、事業の自走化に向けた取組を行う。

②調査事業については、市北部の山之内地区で栽培されているハーブや野菜類、飲食店や商業施設、温泉等をはじめとする市北部における観光コンテンツを発掘するとともに、食養生による食育や、ハーブセラピー・アロマセラピー、温泉による癒し等の魅力的な観光メニューへ磨き上げを行う。また、市北部の農業の強みを活かし、地域で栽培されるハーブの植え付けや摘み取り等の農業体験も観光商品として開発し、コト消費となる体験型観光につながるような取組も行う。

③モニターツアーについては、旅行代理店を対象にしたもの、女性や若者を対象にしたものの、シニア層や富裕層、さらにはインバウンド観光客を対象にしたものなど、様々な分析が可能となるよう、カテゴリー別のツアー実施を検討する。

3 神戸大学医学部との連携によるハーバルヘルスツーリズムの商品化・高付加価値化

食・運動とヘルスケアを関連させたテレビ番組が放送された翌日は、取り上げられた食材が売り切れとなるなど、消費者のヘルスケアに対する意識の高さは、購買マインドの底上げにつながるものである。このような状況を背景に、今やマーケットには、食や癒し関連で、様々な商品・サービスが提供されているが、効果・効能の観点から懐疑的に見ざるを得ないものもあり、ここをブレイクスルーすることで、高付加価値商品やサービスの開発となるものである。

こうした問題意識から、ハーバルヘルスツーリズムの商品・サービス開発においては、ヘルスケアのエビデンスを踏まえたものとするため、神戸大学医学部との連携や、介護老人福祉施設等のネットワーク化及びICT技術の活用により、ハーブ等を活用した食事メニューやアロマ等のセラピー商品開発につなげる。

ただし、本事業は、科学的に効果・効能を検証することを主眼とするのではなく、専門機関の監修等によって、どのように商品・サービスの信頼性担保や、高付加価値化が図れるかを主眼として検証するものである。

例えば山形県立米沢栄養大学の減塩スープを用いたラーメンが商品化を目指す動きや、国立循環器病研究センター監修のかろしお弁当が実際に販売されている等の事例と同様に、本事業においても食や香り、癒し等の商品・サービスの開発につなげていく。

1年目は、検証事業の体制と調査項目等についてコンサルタント会社等に委託を行う。ICT技術を活用したバイタルデータの取得や、データベースの蓄積及び活用等について調査・研究を行う。

2年目以降は、具体的な商品やサービスを体験してもらい、安心感や信頼感、消費意欲の高まりを感じてもらうための販売方法・提供方法などの検討につなげる。

3年目は、2年目の成果を論文として公表することで、科学的なエビデンスを明確にし、姫路市北部産のハーブの高付加価値化につなげる。

4 カモミールの収穫ロボットの開発と観光資源化

兵庫県立大学と連携し、カモミール収穫ロボットを開発し、収穫作業の効率化と収穫量の増加を図る。収穫は手摘みと同等の作業を行えるものを目指す。また、カモミール収穫ロボットは、収穫ボランティアと同じ場所で作業できるものとし観光資源とするとともに開発する兵庫県立大学のメンバーも地域の課題に触れ、地域と交流する契機とする。

5 担い手の育成が図れる農園の整備

姫路の都市近郊農業の特性を活かした、ハーブ等の薬物野菜を主とする儲ける担い手を強力に育成確保するため、栽培に関する指導を受けながら自ら農作業の実践を積み、必要な知識・技術の習得や経営手法を学ぶ場として、新規就農者育成支援型農園を整備する。

また、本農園には、市民農園機能に加え隣接のJA農園との官民連携により、子ども連れの家族や観光客等を対象に「食育」や「農業体験」を学ぶ観光農園としての機能をもたせる。

6 担い手の育成支援

5の農園整備と併せて新たな担い手の育成支援する取り組みを実施し、播磨圏域の市町に波及するハーバルヘルスツーリズムによる地域活性化と稼ぐ力の創出を持続・拡大可能なものとするためにも、特に就農希望者個々の実情に配慮した、実効性ある非常に重要な選択肢のひとつとして、姫路の都市近郊農業の特性を活かしたハーブ等の薬物野菜を柱とする農業経営に必要な知識の習得や技術を体現できる新規就農者育成支援農園を整備する。

(1) 農山村地域活性化ラボ

北部地域の営農組合代表者、認定農業者や若手農業者、林家等が主体性を持ち、地域課題の抽出と共有をはかり、コーディネーターによる農業の成長産業化に向けた方策研究を行う。

(2) 資源活用先駆的モデル事業

近畿大学との連携のもと、北部地域の潜在的な地域資源の活用方策について、チョロギキムチなど商品開発をし、高付加価値化による先導的・先駆的モデルとなる儲ける農業として確立していく。

(3) 作物的獣害対策事業

特に獣害対策が求められる北部地域において、農区や集落営農組織と連携協力し、こんにゃくやエゴマなどの忌避作物の効果検証並びに当該作物による6次産業化も視野に地域ブランド化を図っていく。

(4) 集落カルテ作成事業

地域が抱える課題把握と営農条件を整理し、新規就農者や法人をはじめとする農業参入者とのマッチングを効率的に行う基礎資料とするため、集落毎の農地・耕作状況や担い手受入への意向、6次産業化推進への可能性などを調査し、カルテ化する。

(5) 集落農地マッチング事業

姫路市で就農したい人と集落営農との交流の場を設け、マッチングを図る。

(6) 農業指導事業

経営診断士等を派遣し、6次産業化等についての個別指導を行う。

(7) 指定管理による農園整備

新規就農者育成支援農園を指定管理制度を活用し運営する。

7 既存事業との連携・今後の展開

5の農園に隣接する温浴施設（姫路市はやしだ交流センターゆたりん）は、市が地元団体を指定管理者として運営委託しており、今後、当該指定管理者による一体的な管理運営を展開することにより、地域住民や新規就農者などの交流拠点としての更なる機能向上が図れるなど、相乗効果が期待できる。

また、当該温浴施設はレンタサイクル事業を行っており、今後増加が予想される周辺空き家と遊休農地とをセットで活用する農家民泊の研究・整備と併せて、当該農園を、林田町全体を滞在型農園とみなした場合に観光拠点（姫路型クラインガルテン）としての機能が期待される。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

- ・2022年度よりハーバルヘルスツーリズムについて、香寺ハーブ・ガーデン主体に実施し、2024年度より全体的に香寺ハーブガーデンが主体的に実施する。
- ・新規就農者育成支援型市民農園については地方公共団体による運営とする。

【官民協働】

- ・香寺ハーブ・ガーデンのハーブの商品・サービスの開発に関する知見、神姫バスの観光ツアーの開発に関する知見、グラノ24Kの観光コンテンツと集客に関する知見など各々の強みを活かして協働による相乗効果を創出するとともに、女性社員・職員ならではの視点や発想を活かすため、グランミールを組織した。

【地域間連携】

姫路市の当該事業をパイロット的に実施し、播磨圏域連携市町にも拡大することにより、播磨圏域全体で地方創生の実現が可能となる。また、各市町単独では効果を得にくい施策についても、連携・協力により推進することができる。

【政策間連携】

ハーバルヘルスツーリズムと新規就農者育成支援型農園の整備を連携して推進することにより、ハーブや野菜等の地域農業生産を拡大し、農家の所得向上や担い手育成を図るだけでなく、滞在型の観光客の増加、交流促進や地域住民の健康寿命の延伸にも寄与し。また、農業生産の拡大によってより多くのヘルスツーリズム利用者を受け入れ可能とする好循環を創出する。

【デジタル社会の形成への寄与】

取組①

カモミールの収穫ロボットの開発と観光資源化

兵庫県立大学と連携し、カモミール収穫ロボットを開発し、収穫作業の効率化と収穫量の増加を図る。収穫は手摘みと同等の作業を行えるものを目指す。また、カモミール収穫ロボットは、収穫ボランティアと同じ場所で作業できるものとし観光資源とするとともに開発する兵庫県立大学のメンバーも地域の課題に触れ、地域と交流する契機とする。

理由①

カモミールの収穫を手摘みによって行っている非効率性の解消を目指すとともに、開発を地域の大学に担ってもらうことにより農業分野のデジタル人材の育成に貢献する

取組②

該当なし。

理由②

取組③

該当なし。

理由③

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4－2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 6 月

【検証方法】

毎年度、産官学金労言が参画する外部会議「ひめじ創生戦略会議」を開催し、事業の進捗状況、数値目標の達成度などを検証する。

【外部組織の参画者】

姫路商工会議所、姫路経営者協会、JA兵庫西、兵庫県立大学、姫路獨協大学、津田このみ学園、三井住友銀行、日本政策金融公庫、連合兵庫姫路地域協議会、神戸新聞社、自治会、婦人会、兵庫県、公募委員

【検証結果の公表の方法】

事業の進捗状況、数値目標の達成度などを報告し、事業の進捗管理を行う。会議結果はホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 206,108 千円

⑧ 事業実施期間

2019年4月1日 から 2024 年 3 月 31 日 まで

※企業版ふるさと納税との併用による事業実施期間延長適用

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

(2) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

(3) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2024 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に
7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。